

# 6. しっぽの森ボランティアサポーター活動紹介

令和3年度から始まった「しっぽの森ボランティアサポーター」の活動を紹介します。今回は、しっぽの森ボランティアサポーターとして活動しているZ様にお話を伺いました。



しっぽの森ボランティアサポーターとは？

すでに、動物についての専門知識や技術を有して動物愛護推進員、譲渡ボランティアとして活動している方々で、しっぽの森の犬・猫の馴化や動物愛護管理啓発事業等に協力していただくことを目的とした登録サポーター制度です。

しっぽの森ボランティアサポーターに登録しようと思ったきっかけを教えてください。

動物愛護推進員の立場では関われないしっぽの森イベントの企画や犬・猫のお世話といった活動に協力したいと思っていたところ、しっぽの森のスタッフの方々の勧めもあり、登録しました。



動物愛護フェスティバルでは、「わんにゃん鉢植えカバー」のワークショップを企画・運営いただきましたが、実際に対応してみてどうでしたか。

動物愛護フェスティバル中、途切れなく来場者の方が立ち寄り寄ってきて、それぞれに楽しんでもらえたようで、やってみて良かったと思いました。振り返ると反省点もありましたが、他のサポーターの方の協力もあり、トラブルなく終わられてほっとしています。



今後、しっぽの森サポーターとして、こういった活動をしたいと考えていますか。

人に慣れていない保護犬の馴化(じゅんか)に興味があるので、機会があれば関わってみたいと考えています。また、しっぽの森ボランティアサポーターとして活動するまでは、求められる要件がなかなか厳しいと心配していましたが、皆さんの「無理なくできることからいいですよ。」という言葉に救われています。



## しっぽの森インスタグラムのご紹介



しっぽの森では、インスタグラムで譲渡動物やイベントなどの情報を発信しています。しっぽの森でトレーニングを頑張る犬や、ふれあいルームでくつろぐ猫、イベント開催の様子など、様々な写真と共に、しっぽの森の様子をお伝えしています。是非一度、インスタグラム「しっぽの森\_さぬき動物愛護センター」をご覧ください。 @sanuki\_shipponomori



是非一度、インスタグラム「しっぽの森\_さぬき動物愛護センター」をご覧ください。



1. 動物愛護フェスティバルを開催しました!
2. ペットの災害対策について
3. ペットとの暮らし~災害に備える~を開催
4. 高齢ペットについて
5. 新しい家族を迎えて~しっぽの森から譲渡した犬や猫たち~
6. しっぽの森ボランティアサポーター活動紹介

## 1. 動物愛護フェスティバルを開催しました!

令和4年9月23日(金・祝)に動物愛護フェスティバルを開催しました! 心配していた天気もどんよりとした曇り空でしたが、なんとか持ちこたえ、2年ぶりに無事開催することができました。

子ども獣医師体験や公洲森林公園でのナゾトキ散策、動物12面ボール作りなど、多くの方に足を運んでいただき、楽しく動物愛護や犬・猫の適正飼養などについて知って、考えてもらうきっかけになったと思います。



今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大や天候などの影響で開催が危ぶまれましたが、多くの方々のご協力のもと無事開催することができました。ありがとうございました。

## 2. ペットの災害対策について

災害は突然起こります。いざというとき、あなたとペットが安全に避難でき、一緒に暮らせるように、日頃からの心構えと準備が大切です。

### 1. 日頃からの準備

ペット用のフードや水、薬などの命に直接かかわる物資の備えを優先することはもちろん、ペットシートなどのトイレ用品や、ペットのワクチン接種状況などがわかる健康手帳など、さらにはペット用のおもちゃなどを用意しておきましょう。

また避難所では、ほかの人や動物と一緒に生活することになるため、ペットへのワクチン接種やノミ・ダニの駆除といった基本的な「健康管理」をしておくことや、ほかの人や動物に吠えないようにする・ケージなどの中でおとなしく生活できるようにしておく、といった基本的な「しつけ」も行っておく必要があります。



### 2. 災害が発生したとき

まず、飼い主さんやご家族の身の安全を確保してください。そのうえで、ペットの安全を確保しましょう。飼い主さんやペットの安全が確保できたら、速やかにペットとともに避難所へ避難(同行避難)が行えるよう、ペットにリードを付けたり、キャリーバックに入れるなどして、飼い主さんのそばで待機させましょう。

### 3. 避難所での生活

同行避難するときは、できる限りケージやキャリーバックを用いて避難します。避難所ではペットとともに過ごせるとは限りません。ペットの飼育スペースを確認します。避難所には、動物の好きな人、嫌いな人、動物アレルギーの人など様々な人が集まります。動物の世話も含め、飼い主さん同士が協力しながら、普段以上に周りへの配慮を忘れないようにしてください。

## 3. ペットとの暮らし～災害に備える～を開催

令和4年9月10日(土)、しっぽの森でペットの災害対策に関するイベントを開催しました。ペットを飼っている人も飼っていない人も、ペットの災害対策に関する考え方を学んでいただきました。

当日はペット災害危機管理士の武田先生にご協力いただき、避難所運営ゲーム(HUG)を実施しました。実際に災害が起こった状況を想定し、参加者のみなさんは避難所を運営する立場となって、避難所でのペットの問題も含めたいろいろな出来事にどのように対処していくべきか体験していただきました。



参加者の皆さんからは、避難所運営ゲームによって災害時の避難所運営の大変さがわかり、今後も勉強していきたいとの言葉を多数いただきました。

## 4. 高齢ペットについて

ペットの寿命は年々伸びて、犬や猫も15年以上生きることも珍しくありません。ペットも飼い主も年を重ねると体力や生活習慣が変わります。高齢ペットと飼い主が、共に暮らせるように、日頃から備えましょう。



### ① 犬・猫の老化のサイン

- 目が白く濁ってくる。耳が遠くなる。
- 白髪が目立ってくる。毛づやが衰える。
- 運動量が減る。反応が鈍くなる。
- 段差でつまづく。高い所に飛び上がれなくなる。
- 寝ている時間が長くなる。



### ② 高齢ペットのケア

ペットも高齢になれば身体も弱り病気にもかかりやすくなります。小さな変化を見逃さないように心がけ、高齢ペットの過ごしやすい部屋づくりを行いましょう。

- 寝床は、やわらかい素材で、涼しい場所と暖かい場所に置きましょう。
- 階段や台所は柵で入れなくしたり、高いキャットタワーは低くするなどして事故を防ぎましょう。
- 食べやすいように、食器を少し高い位置に置きましょう。



犬や猫は、人よりも早く歳をとります。別れはつらく悲しいですが、ペットにとっては飼い主の愛情が全てです。最後までみとるのは飼い主の最後の愛情と責任です。

環境省「共に生きる 高齢ペットとシルバー世代」より

## 5. 新しい家族を迎えて ～しっぽの森から譲渡した犬や猫たち～

しっぽの森卒業犬の新しい暮らしを紹介します。  
今回は、高齢の犬「フネちゃん」との新たな生活をはじめられたM様からおたよりをいただきました。

### ◎しっぽの森から犬の譲渡を受けようと思ったきっかけ等があれば教えてください。

以前飼っていた犬が死んでから4年が経ち、そろそろ犬を飼いたいと思っていました。犬種にこだわりがなく、犬を飼うなら『保護犬』と以前から考えていました。子供たちは成人し、現在、私一人なので遊びたい盛りの子犬より落ちついた成犬、日中も留守にするので一人で淋しがらずにお留守番できる犬でなければいけない、と思っていました。そのような話を職員の方にしたところ、すすめられたのが『フネちゃん』でした。推定13才のおばあちゃん犬でしたが、とても元気で人懐っこく、しっぽをふりながら近づいてきてくれました。



### ◎トライアル制度を利用されましたが、どうでしたか?

トライアルでは、事前に職員の方が訪問してくれて、飼育環境等いろいろなアドバイスをくれました。トライアル期間中、新しい環境に慣れてくれるのか心配でしたが、トライアル初日、家に連れ帰ったら直ぐにゴハンを食べ、用意した犬小屋でぐっすり寝たのでホッとしました(笑)あと、外で飼うため『むだ吠え』しないか心配でしたが、それもクリアできました。

### ◎現在のフネちゃんの様子と今後のことをお聞かせください。

散歩が大好きで、歩き始めると最初の100mくらいは全力疾走しています。私は早歩きでついて行くのですが、大変です。ただ、足を横にすべらせてしまったり、ジャンプや高い所から飛び降りるのが苦手なところは、やっぱりおばあちゃんだなあと感じます。のんびりお昼寝をしているフネちゃんを見ると私もうれしくなります。今からお手やおすわりを教えるつもりはないので、2人でのんびりすごしたいと思います。